

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

2490号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03 3581 0486 FAX03 3580 5955

発行人 谷合靖夫：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697

<http://www.zck.or.jp>



夏の光

もくじ

随想	情報	情報	情報	フォーラム	活動
----	----	----	----	-------	----

山本全国町村会長が合併シンポジウムで意見陳述 定住と交流の、元気あふれる町「北海道知内町」 カプセルNOW&NEW「秋のイベント特集」 新任都道府県町村会長の略歴(埼玉県)……… 都道府県別市町村数(平成16年8月1日現在)……… 行く先を案じつつ………	青森県脇野沢村長 山崎隆一………	(11)	(10)	(9)	(8)	(5)	(2)
--	------------------	------	------	-----	-----	-----	-----

◎写真募集◎
本誌表紙に掲載の写真を募集しています。四季折々の風物や行事など適当な写真がありましたらご寄贈下さい。(写真には題名、町村名を付して下さい)なお、採否は当方に一任願います。送り先：全国町村会・広報部

閑話休題

あるディレクターから連絡があった。「米をテーマにクイズ番組を作ります。その出題と朗読を担当してください」との作品を朗読するのかと尋ねると、「船津伝次平という人の……」私は最後まで聞かず、逸る心で「えっ！上州の船津伝次平のこと？」私の反応にディレクターは驚き「伝次平を知っているのですか？『稲作小言』という素晴らしい作品があるの、国際コマ年でもあり紹介したい」と言う。

声に出したい『稲作小言』

千葉市女性センター名誉館長
NHK番組キャスター 加賀美 幸子

上州・群馬県には「上毛かるた」という県の風土と人と歴史を子供たちに伝え続けてきた「いろはかるた」があり、私も縁があつて小学生の頃から馴染んできたのである。「ろ」は「老農、船津伝治平」……農業に力を尽くした先人の存在を知っていたが、稲作小言は始めてであった。声に出すと調子もよく、ぐいぐい惹きつけられる。「ヤレヤレ皆様、しばらくお耳を拝借しますよ」と始まる。……飯には勿論、酒でも寿しでも、菓子でも味

増でも 御米で作れば 味いよろしく 紙漉く糊にも 布張るのりにも 調法致して 無類のものなり 精げる時分に 出でたる粉糠は 牛馬の食料 肥料に要用 沢庵漬けには最も必要 糠味増漬けにも 是又同様 そのまた茎藁 飢饉の食料 製紙の材料 縄・蓑・筵に 依にかますに 草鞋に 脚半に 農家のふき草 垣壁 などに 添ふるは勿論 焚きてはその灰 種々に必要 腐敗しますりや 肥料に適當 其のほか効用 枚挙に 尽きせず ……(略)…

上等種類を 多分に作り てどしどし 輸出し

その良き味わい 十分知らしめ 尽力すること 農家の職分 皆様励んで 勉強しなされ……(大幅に略) 番組が終るや、小言の内容をもう一度知りたいという声が多く寄せられ、今も続いている。田地を廃して 牧草を栽培し牛馬羊豚を飼育して肉食を盛んに……という声に対しての明治二十二年の著作なのだが、米の効用について、いま改めて聞きたい小言ではないだろうか。

山本全国町村会長が 合併シンポジウムで意見陳述 ～明日への希望が持てる合併が課題～

政府の「市町村合併支援本部」(本部長・麻生太郎総務大臣)は、8月5日、東京都内で「市町村合併をともに考える全国リレーシンポジウム2004」(市町村合併支援シンポジウム)を開催した。当日は、市町村関係者や住民など約1000名が参加した。

挨拶に立った小泉純一郎内閣総理大臣は、市町村合併が「地方にできることは地方に」という取組の一環であり、行財政基盤を確立し、地方独自の発想で施策を取組むためにも必要だとの見解を述べた。また、麻生太郎総務大臣は、「地域主権の時代」になれば、市町村同士が競争をすることとなり、自治体経営を預かる責任者として大局観に立った決断を期待したいなどと述べた。

当日開催されたパネルディスカッションには、本会から山本文男会長(福岡県添田町長)が出席したほか、堂本暁子千葉県知事、高野宏一郎佐渡市長や西尾勝国際基督教大学教授らが出席、それぞれの立場から意見を述べ合った。



小泉内閣総理大臣

小泉内閣総理大臣あいさつ(要旨)
この市町村合併は、私が進めております。地方にできることは地方に

という大事な取組でございます。改革を進めようと思すと、特に永年慣れ親しんできたものを変えるということについてはどの分野でも賛否両論が出て参ります。

この市町村合併、地方で特色を出して、自分たちでできることは中央省庁に依存しないで自立してやってゆくということを考えますと、まず、自治体の規模、行財政基盤の確立なしにどのような施策も実行できません。そのようなことから、3000ある地方自治体が特色のある事業を独

自に展開してゆくためには、政府としては将来は1000くらいがいいのではないかと考えてございます。

しかし、できるだけ市町村の意見を聞きながら合併を進めていくことが必要だと思っております。こうい中で、やはりどのように自らの自由裁量を拡大し、独自の住民サービスをやるのかという観点から取り組んでいただきたいと思っております。

私どもも、できるだけ地域の皆さんが画一的でない特色を出しながら、独自の発想で取り組めるような制度や仕組みを考えて参ります。

今までの取組や慣行を変えることになりましたので、とまどいなどもあろうかと思いますが、新しい時代に地域が自らの裁量を発揮できるように行財政の改革はどうあるべきかを踏まえ、より一層の取組をお願いしたいと思います。

麻生総務大臣あいさつ(要旨)

市町村合併をともに考えるということで全国各地で開催していただいたこの合併シンポジウムも今回の東京が最終回となりました。

私が就任した時約3200あり

ました市町村がおよそ3100にこの10ヶ月間の間に合併は進んでおります。それなりにご意見やご異論もあつたと思いますが、自分たちのまちの将来や地域の将来について、それぞれに納得して、合併に踏み切つて頂いてその成果を少しずつではあるうかと思えますが確実に上げている市町村を私どもも知っております。

これからは、地方同士が競争する時代です。地方の首長さんは自分のまちを経営するという資質、能力を問われることとなります。競争ですから勝つところと負けるところが出てきます。機会の均等という競争条件には私どもも努力いたします。しかし、何もしなかつた市町村と一生懸命努力した市町村との間に差がついてくるということは、当然の結果であります。それは、その地域でその人を選んだ地域住民の責任ということにもなります。私たちはそういう時代に足を踏み入れつつあると思っております。皆さまがこうしたことができるようにするためには財源が必要だということで、今回の三位一体改革、3兆円規模の地方への税源移譲も進めております。

自治体の中には、地域の特色を活かせない、だから合併はいやだという所もあると思えます。その場合には、そのまちが行政コストも含めて成り立つように、町村長や市長が自分のまちの経営を真剣に考えていただきたい。

私たちは合併を強制的に進めることは全く考えておりません。しかし、

活 動



山本 文男

全国町村会長の山本でございます。私も全国町村会では市町村合併に反対だと言われる人がおりますが、決して反対しているわけではありません。ただ、合併するための環境整備をしてほしいと申し上げてきたのであります。

いまから5年くらい前、町村数は2550位ありましたが、現在は、2392に減って参りました。5年間で150位の町村が合併したことになりません。なぜ、5年間でそれ位しか進まなかったかと言えば、本来自主合併でなければならぬはずの合併が、そうでない場合も多かったからではないでしょうか。合併論議をしてきた方の中には、合併とはあまり関係のない人たちがいる議論してきた経緯があるように思います。

市町村長の意見を聴いて合併推進法を作って頂ければ良かったのですが、あまり聴いて頂けなかったような気がします。ですからひとつの流れを決めてしまつて、みんな「右へ倣え」で合併をしまえという結果として国が指示をしたという感じを持つている人が多いと思います。

当時、最も心配したのは、合併しないと財政的な圧迫を加えられ、小さな町村は自主的な運営が不可能になるので、合併の途を選ばなければ



麻生総務大臣

現実問題として行政コストの差というのは明らかでありますので、これを効率よくするために、情報通信技術の発展というものも視野に入れてお考えいただくなら、今こそがその

パネLDィスカッションにおける山本会長意見陳述要旨

時期ではないかと思っております。私もいろいろなご批判がある中、一歩踏み出したところです。多くの問題点があるのは事実だと思えます。それを考えた上で最終決断をして頂くことになるのではないかと思えます。

いまは大きな時代の変革期にあります。日本という国家も生き残らねばなりませんけれども、自治体の経営を預かる責任者としてそれぞれみな悩み多い時に職務を遂行されていると推察されます。皆様方の大局観に立った決断と実行力に期待をいたしまして、ごあいさついたします。

いけないようになる、ということでは。しかし、自主的な合併というのは住民本位で選択することだということに、徐々に皆さんがなつてきたということではないかと思えます。

その結果、いまほとんどの町村で何らかの合併の協議を行つております。しかし問題は、合併すると必ず財政が豊かになり、地域が振興し、地方分権も確実に進むというわけではないということなのです。国がそのために合併を促進するのであれば、財政的な問題、分権の問題や地域の将来ビジョンを示すべきであり、その方が合併を促進できるのではないかと思えます。そういうことがあまり示されませんでしたので、手探りで合併を進めることになりました。

私も昭和の大合併を経験した一人ですが、昭和の大合併をした結果は、結局(今後)合併をしようという意欲を欠くものでした。私の町は隣村と合併をしたのですが、当時その村の人口は2800人位で合併して2万人位の町になりました。この合併した村は中心部にダムができ、壊滅状態になり分散してしまいました。いまでは人口は800人位しかありません。その村には合併効果は出ておらず、かえつて合併した町側の方がずっとその影響を受けてきました。当時から道路も十分整備されておらず、社会資本も不十分でありました。ですから、私が町長に就任してからの32年間、殆どその村に投資をして参りましたが、今年が来年には完了すると思えます。

私はこれが合併した成果だろうかと時々思います。なぜこうなつてしまったかということについては検討しておりますし、また、反省するべき点も多いと思っております。しかしそれは、国が示したのだから正しいと単純に判断したからだと思います。

ですから、今回の合併は、皆さんが十分に考えながら行っているのだと思います。法定協議会がたくさんできておりますから、あと1年もするとかなりの数の合併が進むでしょう。しかし、先ほど申し上げましたようにすぐに結果が出てくるわけではございませんので、後悔のないようにすることが大事だと思います。いずれにしても、せうかちに合併を進めることには賛成できません。自主的な合併ですから自主的な判断により合併を進めることが必要です。

それから、合併を進めることによつて地方分権が進む、あるいは財政基盤ができるというのであれば、大小をなくして一定の規模の市町村にならなければならぬと思えます。市町村というのは、発足したときから格差があるんです。大きなところと小さなところ、地形の問題もあり、あるいは文化の問題もある。それぞれ事情が異なつておりますから、画一的な市町村を作つていくということとは不可能だと思います。

ですからこの合併はそういうことを念頭に置きながら進めていくことが必要だと思います。同時にまた、地方分権のために合併を進めるんだと言われておりましたが、地方分権

は一括法が施行されて以来、全然進んでおりません。合併を進めるならば、地方分権も同じように歩調を合わせて進めていくことが必要だと思います。何故それをやらないのかと聞くと、自治体の規模が小さいから分権ができない、と言われる。それは、市町村を信頼していないということだと思います。信頼をしていない市町村を今まで何で見逃してきたのですか、ということになる。私は、地方分権を促進する意味からも、合併は少しずつでも進めるべきだと思います。

いま、法定協議会が590位つくられております。しかし、一方でせっかく作った法定協議会が破綻したり、離脱する例も少なくありません。なぜ、そうなったか見てみると極めて単純なことで対立している。たとえば市役所をどこに置くか、これだけで合併を止めたところがございます。また、使用料や手数料などを一緒にしないと合併できないと思いますが、これで意見が対立したりしています。

合併というのは、大前提としてメリットがあるということですから、メリットがないなら合併しなくてもいいではないかということで法定協議会を解散しています。合併するとかえって住民負担が重くなるということだと思います。合併が破綻した項目を調べてみますと22くらいありますが、そんなにたくさん対立点があるわけですから、これをうまく調整しないと破綻を招くことになるんです。今度の新しい法律は西尾先生が中

心になって作られました。私は新しい法律の方が現行法よりもなじみやすい気がいたします。新しい法律は、合併した市町村に特別の自治区を作った従来の市町村が行ってきた事務などについて、進言ができた、あるいは住民の皆さんが勉強できたりするような趣旨でできています。

それから、現行法であまり喜ばれていないのは合併特例債です。これは使うときは良いかもしれませんが3割は起債で借金しなければなりません。私はこの特例債が合併の障害になっていような気がします。新法にはそれがありません。合併の障害になるようなものについては、支援するということになっておりますので、本当の意味で障害になつていようなものを除去すれば、それこそ順調に合併ができるのではないかと思います。新法では、17年4月以降5年間やっていくことになりまから、あまり慌てて無理をして合併をする必要はないと思います。

それから、考えなければならぬことは、合併には期限があるはずはないんです。合併を5年間でやれということではなく、合併は市町村が続く限りあり得るんです。5年間で合併をやれという人は地方自治法をよく理解していない人だと思いますから十分な検討をして合併することが必要だと思います。

地方分権を実現するために合併をやるんだということになっておりますが、地方分権も(市町村の)大小にかかわらず進めていくことが必要

ではないかと思えます。これが、合併の促進にもつながらずと思えます。

また、合併をするときには、住民の負担増を避けることは大事なことだと思えます。特徴ある新しい自治体を作ることが必要ではないかと思えます。ただ、町村が合併してそれでいいというものではありません。これからは、地方主導の時代になることは間違いありません。同時にそうなるよう私たちは努力しなければなりません。

合併した後の地域の振興策ですが、先ほど申し上げた私の町が合併したときの時の振興計画は実にラフなものでした。我々のような中山間地域では人口が伸びず、衰退していくばかりです。そのため周辺部は疲弊を続けるだけです。これからの振興計画というのは、住民の皆さんたちが納得のいくようなものを作らなければなりません。そういうことを考えていくことがこれからの合併では大事ではないかと思えます。

ここで2つの例を申し上げます。地方制度調査会では、人口が少ない市町村については、事務を県が吸収して窓口事務しか残さないということを議論したことがあります。これを口実にして県から合併しなければ窓口事務しか残らないと何回も言われたそうです。このため、住民の皆さんに諮って合併をしました。その後、そういうこと(窓口業務しか残さない)にはならないということになった。そこで合併をしなくても、何とか合併をしなくても

良いようにしてくれということもありました。しかし、結局ここは合併をすることになりました。

もう一つの例は、合併をすることになったので、うちの町の職員は100人しかいないけれど、この際多くの職員を採用して大増員をしたという事例です。これでは一体何のための合併だと考えているのかと思えます。

合併というのは、言い方は悪いかもしれませんが、リストラ、合理化なんです。5つの市町村が合併すると首長は1人になってしまふ。職員数もまとまるわけですから縮減してもいいということになる。地方交付税もいままで5市町村にきていた分を10年間は認めるといっています。合併というのは合理化をやっていくのですから、そのことを考えないといけません。職員を増員したり、全ての地区に公民館を造るといっているのは、合併の趣旨に反していると思えます。

合併というのは、住民の利益のために、住民の意思によって決めるべきことであって、メリットのない合併をして、住民の反発を買つことは避けるべきだと思います。したがって、合併をすれば全て問題が解決するといふような安易な考え方は止めるべきだと思います。

住民の皆さんが喜んで、明日への希望がもてるような合併にすることが私たちの大きな課題ではないでしょうか。

フォーラム

現 地 レ ポ ー ト

定住と交流の、元気あふれる町



しり うち ちょう

北海道

知内町

多彩で元気な
特産品があふれる町

農林漁業を基幹産業とする知内町。農業は水稲の他、ニラ、ホウレン草、トマト等の施設作物の栽培が盛んです。特に日本農業賞を受賞したニラは品質・生産量とも北海道一を誇っており、ホウレン草やトマトと併せ健康志向にマッチした、「元気の出る」、「元気になる」野菜の生産・販売を展開しています。品質や生産量の向上はもちろんのこと、平成16年度からは、生産者や生産日等の履歴情報を包装に書き込む「トレサビリティシステム」を導入し、より安全で安心な産品を消費者にお届けできる体制を整備しています。

漁業では養殖漁業が定着しており、中でも津軽海峡の荒波にもまれて育つ牡蠣は他の有名産地のものにも負けない味と評判です。毎年2月には海・山の特産品が対決する食のイベント「味な合戦・冬の陣」を開催し、どちらも厳冬期に旬を迎える特産品をふんだんに使った「牡蠣・ニラそば」や「牡蠣・ニラパスタ」



フォーラム

ニラの栽培風景



など牡蠣とニラの共演による創作料理の販売や特産品の即売会、牡蠣の殻剥き実演会が好評で町内外から多数の来訪者をお迎えしています。

更にホタテの他、津軽海峡が、本州方面では「城下ガレイ」と呼ばれて珍重されている高級魚「マコガレイ」の北限海域となつていることから、その全国ブランド化にも取り組んでいます。

町ではこれらの産業振興を最重要課題と位置づけ、必要な施設の整備や特産品の開発研究、産品の販売対策等、ハード・ソフト両面にわたる事業を展開して、農林漁業の経営安定と向上による定住対策に取り組んでいます。

一次産業の他にも、木材・木製品製造業や水産加工品製造業も盛んで、単板・合板を使ったパチンコ台や家具、フローリング材やスモークサーモン等の製品が全国に出荷されており、製造品出荷額は65億円にの

ほつています。

元気な特産品が生まれる素地



北海道渡島半島の南西部に位置し、総面積197km²、人口6千人の知内町。東側は津軽海峡に面して約21kmの海岸線が形成されており、町の中央部を千軒岳を源とする知内川が流れ、その流域に農地が広がっています。町面積の81%を森林が占め、この森林を母として、知内川を始め町には中小34もの河川が津軽海峡に注いでいます。豊かな森林資源と、その森林に端を発し河川を通じて津軽海峡に注ぐ清浄でミネラル等に富む知内のおいしい水が、元気な農林水産物を育む源となっています。

元気な環境づくり

町では、水質環境の向上とトイレ水洗化による快適な生活環境づくりを進めるとともに、森林や河川、海

水産加工風景



牡蠣の水揚げ風景

の豊かな自然環境を次代に引き継ぐために、平成8年度から公共下水道の整備に取り組んでおり、平成13年度からは一部供用を開始しています。また町の中心部から離れた地区では農業集落排水施設の整備や町が全額助成する個人の浄化槽整備などで、町民皆下水道を推進しています。

古い歴史を誇り、新しい時代を拓く町

町名の由来は、アイヌ語の「チリ・オチ」（鳥のいるところ）とされています。この鳥とは鷹のことで、江戸期には町内で捕獲された鷹が徳川将軍に献上されていました。また、町内の神社が所蔵する古文書には、「鎌倉幕府二代将軍源頼家の命により、荒木大守」という人物が金山見立てのために来道した」という記述があり、北海道内では早くから和人が住みついた、開基800年の古い歴史をもつ町です。



青函トンネル



知内火力発電所

昭和63年にはJR津軽海峡線が開通し、世紀の大プロジェクトと言われた青函トンネルの北海道側出入口となつています。また昭和58年には北海道電力の知内火力発電所が運転を始め、現在35万kW x 2基の体制で道南地域や青函トンネルに電力を供給する「電気のみち」でもあります。

スポーツで元気な町

町の中心を流れる知内川の河川敷に「ファミリースポーツ広場」を整備しており、芝生の多目的グラウンドや8面のゲートボールコート、2コース18ホールのパークゴルフ場、キャンプ場は全て無料で利用でき、町民の健康づくりの場として活用されています。

この広場の付近には夜間照明を備

フォーラム

えた野球場、テニスコート(3面) スキー場でスポーツゾーンを形成しており、「町民皆スポーツによる健康で元気な町」づくりを推進しています。

知内高校野球部の平成5年選抜甲子園大会への出場は、町立高校としては全国初で大きな話題を呼びました。

盛り沢山のイベントで

交流を展開

知内町は「北島三郎」さんの出身地です。ふるさと思いの北島さんは毎年お盆に里帰りしており、ファミリースポーツ広場特設会場で8月14日に行われる「サマーカーニバルin知内」では北島軍団による歌謡ショーや、「義経伝説」に基づく歴史劇、乳房状の瘤をもった杉の古木にまつわる乳神伝説を題材とした



サマーカーニバルin知内

「おっぱいまつり」、「雷光まつり」等で町が盛り上がり、1日で開催されるこれらのイベントには例年2万人を超える来訪者をお迎えしています。また5月の連休には「さくらまつり青空市」、秋には特産品の即売会「産業まつり」を開催しており、四季を通じた盛り沢山のイベントで交流を展開しています。

元気を回復する温泉

町内「湯の里」地区には、民営の「知内温泉」があります。「荒木大学」が金の掘子数百人を引き連れこの地区に居城を造った際に温泉を発見したのが始まりとされ、開湯800年の歴史を誇る名湯で、寛文5年(1665年)には、「松前城主の奥方様ご入浴にあたり、飯家造営を仰せつけ「ご入浴せり」との記録が残る由緒



木工センター

正しい温泉です。この湯の里地区の小学校では、ホタルの幼虫を育成し、付近の小川に放流する活動を続けており、現在は地域ぐるみでホタルの里づくりを展開しています。

この温泉の他にも、平成8年には温泉水を使った運動浴槽(リラクゼーションプール)を備えた町営の「こもれび温泉」がオープンし、「知内温泉」と併せて町内外の利用者に賑わっています。

健康で元気に暮らすまち

知内町でも少子高齢化が進んでいます。6千人の人口のうち、高齢者は1,300人となっています。平成11年度には保健活動と医療を一体的に行う「保健医療総合センター」を整備し、保健師4人、栄養士1人体制で町民の健康づくりを進



こもれび温泉

め、町内を定期的に巡回し各種健康相談・指導活動を行う他、各種住民検診を実施して疾病の早期発見に努めています。また介護保険の開始に先立ち、ホームヘルパー資格の取得費用を町が助成して132人の町民ホームヘルパーを養成し、在宅・施設介護の人材を確保・育成しています。

定住対策の推進

平成13年4月からは、町内の若者の定住や町外からのUイタインの受け入れを目指し、宅地分譲を開始しています。

1区画平均100坪、坪当たり3万3千円で31区画を分譲しています。上下水道を完備し、各種公共施設のアクセスも良いため早期の完売を期待しています。

元気な人材の育成

知内町は、元気あるまちづくりを進めるために、その主体となる人づくりを基本施策としています。

将来のまちづくりを担う中学生、高校生を夏休み期間中に海外に派遣し、ホームステイや語学研修受講費用の全額を町が助成しており、本年度で9年目を数えるこの事業では、これまでに100名を超える中学・高校生を海外に送り出しています。

この他、町民の自主的な研修や文化・スポーツ活動に対しても各種の助成制度を整備し、「自ら考え実践する」人材の育成に努めています。

(知内町企画調整課 小田島伸二)

江差追分全国大会

北海道 江差町

町では、9月17日～19日に江差町文化会館で恒例の「江差追分全国大会」を開催する。

全国10地区の江差追分会会員約4000人の中から選抜された唄い手350人が出場し、

日本一を競う大会で、42回目を迎える。毎年海外支部からの出場者があり、今年もハワイとブラジルから各一人が出場する予定。17日、18日は予選会を行い、19日9時から熟年の部20人、一般の部50人で決選会を行うていく。予選会は無料だが、決選会には入場券(有料)が必要。

江差追分会事務局

01395(2)5544

しばた菊の祭典

宮城県 柴田町

町では、町観光協会の主催町や県などの後援で「しばた菊の祭典」を10月22日～11月14日、船岡城址公園で開催する。

同祭典は、昭和45年のNHK大河ドラマ「樫の木は残った」放映を機に始まり今年35回目を迎える。「しばた菊人形まつり」をメインに、宮城県大菊花展(審査日11月1日)や地場産品物産展示即売会、町民手づくりの広場など様々な催しが行われる。菊人形まつりは当日券で、大人600円、小人300円。

柴田町観光協会

0224(55)2123

越後にしかわ時代激まつり

新潟県 西川町

町は、「越後にしかわ時代激まつり」を10月9日～10日に西川ふれあい公園等で開催する。

同まつり実行委員会が主催し、町などの後援で実施するもので、昔風の屋台や服装で江戸情緒を再現した会場で、本格的な衣装を身につけた代官、奥女、娘などによる代官献上米行列が行われるとともに、歌謡ショーや富くじ、お化け屋敷などのアトラクションなどが行われる。がっど!にしかわ実行委員会(西川町企画課内)

0256(88)3111

朝比奈大龍勢

静岡県 岡部町

町では、朝比奈龍勢実行委員会と町観光協会が主催し、10月16日正午～20時30分に「朝比奈大龍勢」花火大会を実施する。

龍勢は戦国時代のノロシが発達したものといわれ、全長約15mの竹の先に仕掛けをつけた口ケツト花火を高さ20mの発射台から打ち上げる。白煙をあげ上昇する様子が龍の昇天を思わせる勇壮な伝統行事である。静岡県指定無形民俗文化財に指定され、二年に一度、六社神社の祭典と同時に開催されている。当日は、昼17本、夜13本の龍勢の打ち上げを予定している。

岡部町観光協会

054(667)3425

ちりめん街道まるごとミュージアム

京都府 加悦町

丹後ちりめんの一大産地として栄えた町は、当時の街並みを残すちりめん街道を主会場に10月24日に「ふるさとフェア2004 ちりめん街道まるごとミュージアム」を開催する。

町や町商工会などで構成する実行委員会が主催して毎秋開催している恒例の町おこしイベントで、呉服や小物の掘り出し市や各種「バザー」が並ぶちりめん街道染市楽座、雲海染きもの着付講座などを実施。また、養蚕、生糸、織物の守護神をまつる金色蚕糸神祭も同時開催する。

加悦町商工会

0772(43)1446

筆まつり

広島県 熊野町

町では、9月23日に神山神社境内や筆の里工房などを会場に「筆まつり」を開催する。

筆作りの先駆者である乙丸常太、井上治平など先人に感謝するとともに、町の筆産業の発展を願い、町や町商工会などで組織する実行委員会が主催して実施している祭り。筆供養、筆の市、大作席書、競書大会など筆や書にまつわる催しのほか、ふれあいステージ、屋台村、地域交流バザールなどを実施する。

筆まつり実行委員会

082(854)0216

綾競馬

宮崎県 綾町

馬産地として戦前前後を通じて競走馬、農耕馬を生産してきた町は、11月7日に綾町錦原競馬場で「綾競馬」を開催する。

農村の健全な娯楽として行われてきた伝統の草競馬で、昭和57年に町制施行50周年記念事業として再開して以来、今年で23回目。毎年1万5000人が来場する町の一大イベントとなっている。当日は、サラブレッド10レース、ポニー3レースを実施。会場内で特産品を購入するとお楽しみ券がもらえ、そこに印刷されている連勝単式の馬が入賞すると賞品がもらえる。

綾町産業観光課

0985(77)1111

甘諸伝来399年記念・沖縄県野國總管まつり

嘉手納町

野國總管が中国から甘諸を導入して400年を迎える平成17年に「野國總管甘諸伝来400年祭」の開催を計画している町は、イベントとして10月2日～3日に兼久海浜公園で「甘諸伝来399年記念・第25回野國總管まつり」を開催する。

当日は、太鼓フェスティバルや甘諸伝来パフォーマンス、奉納伝統芸能のほか、芋掘り競争、物産市など数々の催しを行う。

嘉手納町

098(956)1111

情 報

新任都道府県町村会長の略歴

埼玉県町村会は七月九日の臨時総会にて次のとおり会長を選出した。

(七月九日付就任)

埼玉県町村会長
北葛飾郡杉戸町長

小川伊七

昭和十六年二月二十一日生



【住所】埼玉県北葛飾郡杉戸町大字本島六一九番地

【町村長に当選するまでの経歴】 昭

新刊紹介

平成16年度版

「農業農村整備事業の地方財政措置の手引」発行のご案内

発行：全国土地改良事業団体連合会

この「農業農村整備事業の地方財政措置の手引」は、農業農村整備事業の実施にあたって考慮すべき地方交付税や地方財政措置についてのコンパクトな手引書として平成2年より毎年発行しており、主な内容は、国と地方を通じて財政構造改革の一環としてのいわゆる「三位一体の改革」による見直し・拡充された地方財政措置（地方交付税算定や地方債措置等）について解説し、また、地方財政制度の概要や農業農村整備事業に係る地方団体の負担についてどのような財政措置が講じられている

和五十二年埼玉北部酪農青年協議会会長 五十八年杉戸町議会議員 平成三年杉戸町長

【町村長としての当選回数】 四回

【町村会関係の経歴】 埼玉町副会長 平成十三年埼玉県町村会副会長

【主な業績】 環境センター建設 リサイクルセンター建設 ふれあいセンターエコ・スポイズみ建設 彩の国いきいきセンターすぎとピア建設

シルバー人材センター設立 東地区才羽用地活用推進協議会設置 アグリパークゆめすぎと設置 杉戸町立高野台小学校建設 学校給食センター新設 杉戸町立高野台保育園建設 オーストラリア・パッセルトンシャイヤーとの姉妹都市提携 杉戸深輪産業団地地区センター建設

【趣味】 ゴルフ、柔道

【家族】 長男

るかをわかりやすく説明している。

この度、最新の措置内容、改正内容を新たに盛り込み内容を一層充実させ、平成16年度版として発行されたものである。

農業農村整備事業に携わる皆様におかれては、地方財政措置を正しく理解

されるうえで本書と先に刊行された「農業農村整備事業の地方財政措置・質疑応答集(平成15年度版)」とを積極的に活用されることにより、これからの農業農村整備事業の円滑な推進に役立つ

自治体関係者必携の貴重な一冊である。

(装幀等) A4判 40頁程度

(価格) 840円(税込み) + 送料

(発行) 平成16年8月中

(購入申込) 全国水土里ネット

(全国土地改良事業団体連合会事業部)

電話：03 32334 55992

FAX：03 32334 5670

天皇陛下 古希奉祝ビデオの寄贈について

天皇陛下には、平成15年12月23日、めでたく古希、満70歳のお誕生日をお迎えになりました。ご即位以来、昨年秋までに、すべての都道府県をご訪問され、地域の発展に心を寄せられるとともに、各地で多くの住民の方々にお会いになり、障害者や高齢者の方々、災害に遭われた方々、福祉や地域振興に携わる方々を激励されてきました。

財団法人菊葉文化協会(内閣府所管の財団法人)では、この機会に、天皇陛下のこれまでのご足跡やお姿をその時々で紹介したビデオを宮内庁の全面的な協力の下に制作し、全国すべての町村に寄贈いたします。

このビデオを来庁の方々や視聴を希望される方々、また、公の施設の利用者の方々など多くの国民の皆さまに広くご覧いただきますよう、ご高配いただければ幸いです。

財団法人菊葉文化協会理事長 藤森昭一

東京都千代田区千代田1-1
TEL (03) 5211-0012



タイトル
「天皇陛下 古希をお迎えになって」
(40分)

企画・著作 (財) 菊葉文化協会
制作 (株) 毎日映画社
協力 宮内庁

都道府県別市町村数(平成16年8月1日現在)

都道府県	町	村	町村計	市	計	都道府県	町	村	町村計	市	計	都道府県	町	村	町村計	市	計
北海道	154	24	178	34	212	富山県	18	8	26	9	35	岡山県	56	12	68	10	78
青森県	34	24	58	8	66	石川県	24	6	30	9	39	広島県	49	2	51	14	65
岩手県	29	16	45	13	58	福井県	20	6	26	8	34	山口県	35	5	40	13	53
宮城県	57	2	59	10	69	長野県	33	66	99	18	117	徳島県	38	8	46	4	50
秋田県	50	10	60	9	69	岐阜県	39	21	60	20	80	香川県	30	0	30	7	37
山形県	27	4	31	13	44	静岡県	43	4	47	22	69	愛媛県	38	9	47	12	59
福島県	52	28	80	10	90	愛知県	45	10	55	32	87	高知県	25	19	44	9	53
茨城県	44	17	61	22	83	三重県	43	9	52	14	66	福岡県	64	8	72	24	96
栃木県	35	2	37	12	49	滋賀県	41	1	42	8	50	佐賀県	37	5	42	7	49
群馬県	33	25	58	11	69	京都府	25	1	26	13	39	長崎県	51	1	52	10	62
埼玉県	40	9	49	41	90	大阪府	10	1	11	33	44	熊本県	59	16	75	12	87
千葉県	41	5	46	33	79	兵庫県	62	0	62	23	85	大分県	36	11	47	11	58
東京都	5	8	13	26	39	奈良県	20	17	37	10	47	宮崎県	28	7	35	9	44
神奈川県	17	1	18	19	37	和歌山県	36	7	43	7	50	鹿児島県	73	9	82	14	96
山梨県	32	16	48	8	56	鳥取県	31	4	35	4	39	沖縄県	17	24	41	11	52
新潟県	46	31	77	21	98	島根県	41	10	51	8	59	合 計	1,863	529	2,392	695	3,087

お役に立ちたい!!

システムシンクは自治体様の立場に立って一緒に考え、ものづくりを行います。自治体様の情報処理システムに関するコンサルティングから、システムの設計・製造、ネットワークの設計・構築、並びにそれらに関する運用・保守までトータル的なサービスをご提供致します。是非、ご相談ください。

事業サービス

パッケージ商品

コンサル
ティング

ソフトウェア開発

運用
保守

健康管理
システム

デジタル
アルバム

セキュリティ
管理ツール

携帯電話
管理ツール



System Think

株式会社システムシンク

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-30-4 BR五反田11F TEL:03-5434-7484 FAX:03-5434-0421

<http://www.system-think.co.jp>

E-mail:kst@system-think.co.jp

随 想

行く先を案じつつ



平成2年7月に、約30年の営林署勤務後、村の収入役を経て、現職に就いた。いや、就かされたと言った方がいかも知れない。それは、強靱で現役バリバリの前村長が51歳で突然病に倒れ、帰らぬ人となった。落ち込む中で、村葬その他に奔走していたのだが、このとき既に私の知



陸奥湾の航跡 高速旅客船ほくと

らぬ所で、村長選出馬の線路が敷かれていたのだ。このことをはじめて知ったときは余にも予想外で、ただ唾然とした覚えがあるが、気がつけば街頭演説のマイクを握りしめ、しわがれた声を振り絞っていた。私の迷いを断ち切ってくれたのは、多くの支持者の皆さんであり、最後に決断させたのは、前村長の人一倍旺盛だった郷土愛と、この村を良くしたいと地方公務員を捨て、どう見ても勝算の低い戦いにあえて挑んだ故浜田昭三氏の志が、私の心の奥底に脈々と息づいていたからであった。前村長は私の一つ先輩で、何事にも積極、前向きな人だった。表向きは馬車馬のごとく突っ走る豪傑を演じていたが、ナイーブでやさしく涙もろい人だった。私とは幼少のころから泥塗れになって白球を追った仲で、こと野球に関しては、自他ともに認めるキチガイの部類だった。私は、64歳になる現在も、熟年野球の

現役である。周りからは、励ましもりもしい加減に、の声の方が強いが、体力の続く限り、生涯現役が目標だと交わしている。

さて、脇野沢村は、本州最北・下北半島の西南端に位置する漁村である。人口は、かつての半分の2、500人まで減り、過疎地域特有の若者流出や少子高齢化が著しい。村の大看板は、歴史と伝統に支えられた真鱈(マダラ)漁で、鱈の里とも呼ばれているが、ここ数年、大不漁に見舞われ、村全体が沈んでいる。反面、勢いづいているのが、これまた有名な天然記念物・北限のニホンザルである。厳冬に逞しく健気に生きる姿は、見る人の心を揺さぶるまさに大自然のパノラマなのだが、春から秋にかけては、丹精込めて育てた収穫間近の野菜等を人先に失敬するため、農家の皆さんは怒り爆発。当然、その矛先がお終いには私に回ってくるので、抜本的対策がない現状と相まって、自然保護と農家の板挟みで、何とも苦慮している。

下北半島の中心地むつ市からは、自家用車で約一時間と、陸路では辺境にあるが、県都青森市から高速旅客船で50分、津軽半島の蟹田町からカーフェリーで一時間で結ばれ、海路を通じて、半島内の秘境「恐山」や「仏ヶ浦」、そしてまた豊富な温泉地へ誘っている。

最後に、愚痴を少々言わせてもらおう。今、全国の大方の自治体が市町村

合併と極度な財政難に喘いでいる。苦渋の源は、否心なしの交付税の大幅な減額にある。確かに、国、地方財政ともに危機的状況にあり、地方分権や市町村合併を見据えた国、地方の改革が必要であることは、十分認識している。

しかし、多くの自治体が市町村合併という難題に取り組み、今まさに大詰め段階を迎えようとしている大事な時期に、しかも、住民に対しては、合併すれば、当面は苦しいが将来に光を見いだせることを財政シミュレーションに示して、既に納得いただいていた。こうした全国的な動きが明白な中にもかかわらず、合併を推進しているはずの国は、さらなる交付税の減額を強行した。その結果は、これまでの合併協議や財政シミュレーションの修正に止まるものではなく、国、自治体、住民間に大きな不信感を招いた。特に、我々にとっては、住民に嘘をついてきたような結果となっている。

平成17年3月には、合併によって多くの首長が失職する。私もその一人だが、合併問題も含めたここ数年の取組の中で、最後は、合併を望ましい形で成就させ、スッキリした気持ちで終えたいものだと思願してきたが、どうも叶えられそうにない。残念ながら大きなツケを残しそうである。

ただ、まだ時間はある。最後の最後まで職責を全うする気には変りはない。勿論、一球入魂、全力投球で。

ゆとりと やすらぎの 一体空間

静かでゆったりとした客室と
一流ホテル(帝国ホテルグループ)
との提携による上質なサービスにより
皆様をお迎えいたします。



洋室ツイン



洋室シングル

土・日・祝日はリーズナブルに

土・日・祝日のご宿泊は
平日料金の20%OFFでご利用いただけます。

金曜のご宿泊は
平日料金の15%OFFでご利用いただけます。

ご家族の皆様方も割引料金でご利用いただけます。

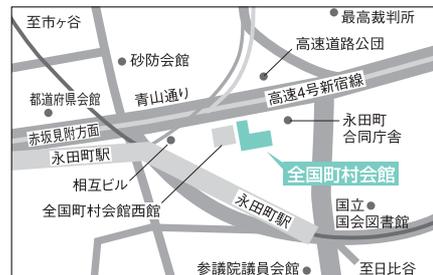
シングル 131室	ツイン 17室
平日料金 9,817円(税・サ込)より	平日料金 18,480円(税・サ込)より
土・日・祝日料金 シングル 7,854円(税・サ込)より	土・日・祝日料金 ツイン 14,784円(税・サ込)より

全国町村会館へのアクセスガイド

有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町」3番出口徒歩1分
丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩5分
タクシー 東京駅から約20分

東京観光地へのアクセスガイド

東京ディズニーランド/地下鉄永田町駅からJR舞浜駅まで約34分
浅草/地下鉄赤坂見附駅から浅草駅まで約27分
東京タワー/地下鉄永田町駅から御成門駅まで約25分
東京ドーム/地下鉄永田町駅から後楽園駅まで約10分
東京都庁展望台/地下鉄赤坂見附駅から新宿駅まで約10分



市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。

ご予約・お問い合わせは



全国町村会館

TEL:03(3581)0471 FAX:03(3581)0220

〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号 <http://www.zck.or.jp/kaikan/index.html>